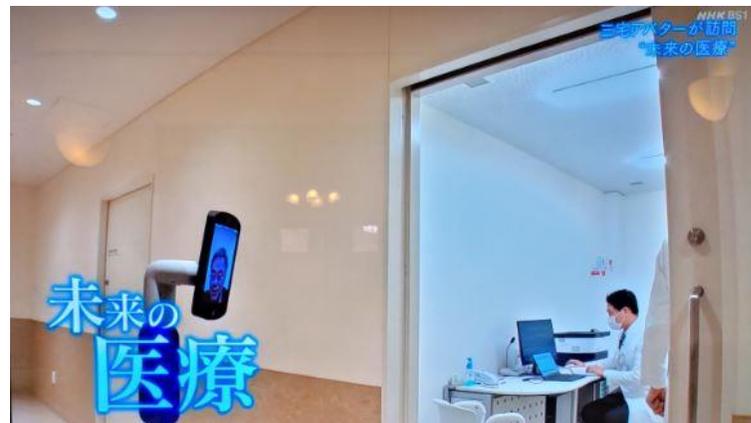


杜の都産業保健会がん発見率 (2021年度データ)

乳がん検診に関する最近の話題

2023.3 発表

NHK BS1スペシャル
『私たちのデジタル医療革命2021』(2021.1.2放映)に当会一番町健診クリニックが放映されました!



丸岡 伸所長が胸部AI読影補助装置開発に協力

当会がん検診の内容

当会では肺がんは胸部単純X線検査とCT検査、胃がんはバリウム造影検査および内視鏡検査、大腸がんは便の潜血反応検査、子宮がんは超音波、擦過細胞診検査、乳がんはマンモグラフィや超音波検査およびMRI検査などでがん検診を行っています。

当会がん発見率の解析方法

要精密検査として外部医療機関に二次検査を依頼し、返事を頂いた件数と、当会クリニックにて二次検査を行った件数について解析しました。したがって**限られた件数の解析**です。

二次検査は肺ではCTや気管支鏡検査、胃や大腸では内視鏡検査を行い、病理組織検査でがんと判明した例を解析しています。

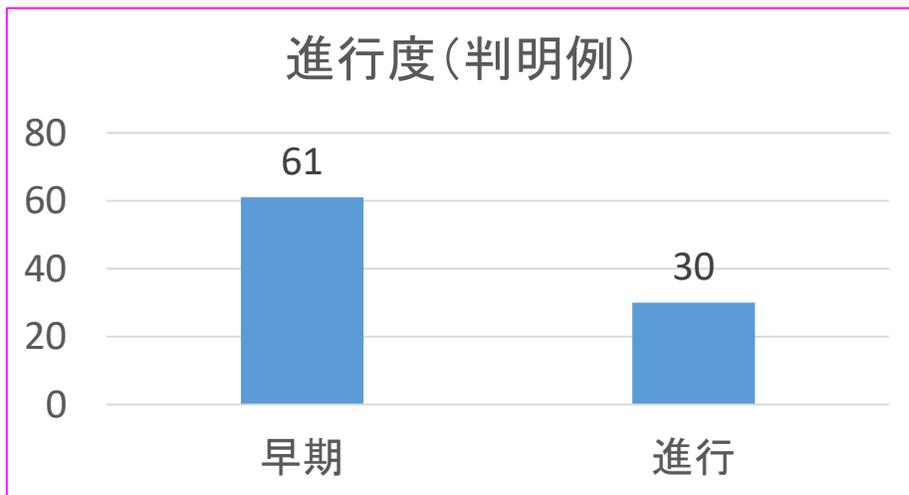
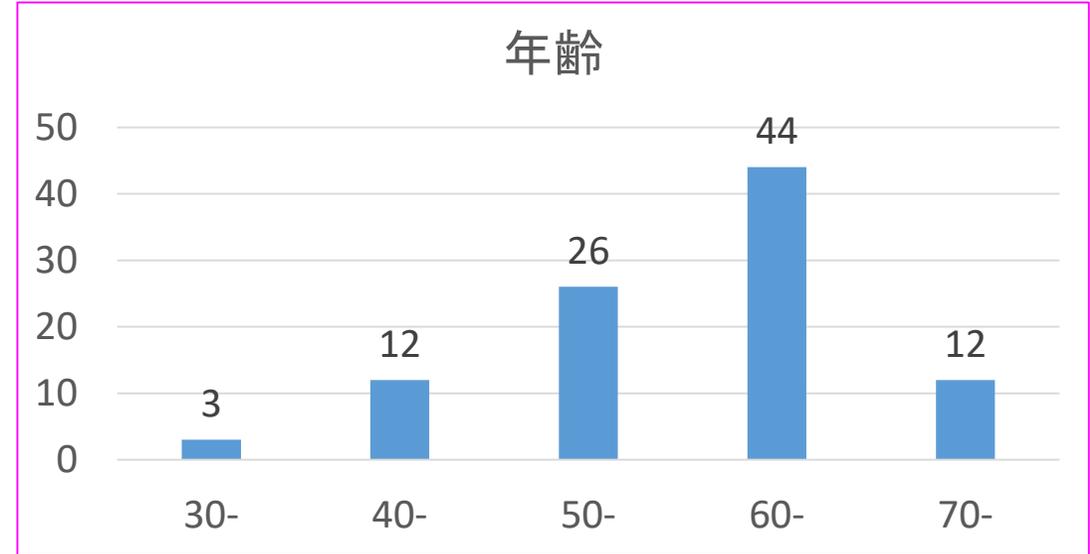
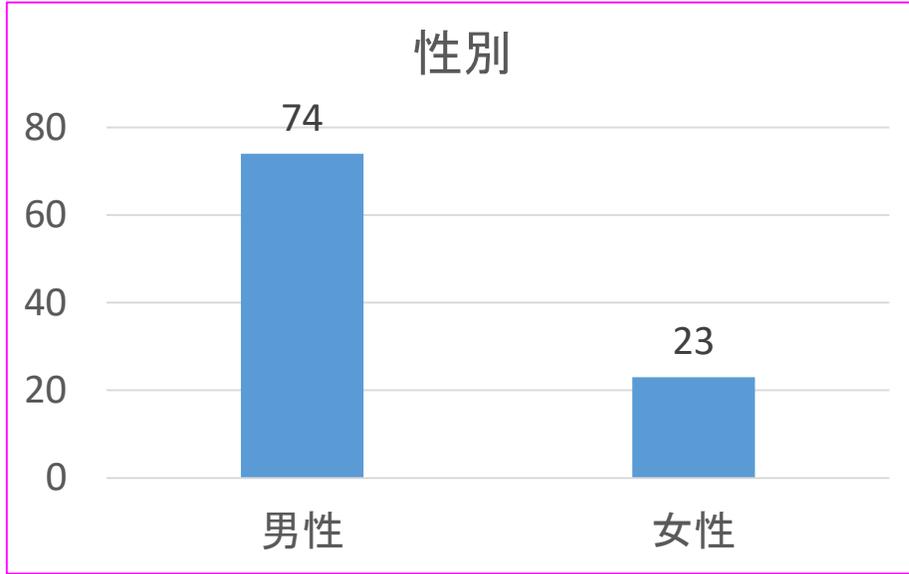
2021年度がん発見率

			肺がん	胃がん		大腸がん	乳腺		子宮がん
				x線	内視鏡		マンモグラフィ	超音波	
実施件数	A		137,745	41,666	3,937	63,523	6,812	4,818	8,433
要精検数	B		1,410	627	73	2,923	457	104	164
要精検率(B/A)			1.0%	1.5%	1.9%	4.6%	6.7%	2.2%	1.9%
精検結果判明数	C	総数	456	206	64	678	384	71	102
	D	要精検数中の比率 (C/B)	32.3%	32.9%	87.7%	23.2%	84.0%	68.3%	62.2%
		(外部医療機関)	302	158	39	399	381	71	47
		(一番町クリニック)	154	48	25	279	3	0	55
がん組織確定	E		13	7	2	15	20	3	11
報告数中癌発見率	F	E/C	2.9%	3.4%	3.1%	2.2%	5.2%	4.2%	10.8%
総受診者中のがん 発見率(推計)	G	E/(AxD/100)	0.03%	0.05%	0.06%	0.1%	0.26%	0.09%	0.21%

まとめ

- 受診者数は肺13.7万人、胃4.4万人、大腸6.3万人、乳腺1.1万人、子宮0.8万人でした。
- 要精検率は肺1.0%、胃1.5%、大腸4.6%、乳腺6.7%、子宮1.9%でした。
- そのうち最終結果が得られたのは一部を除き、23~40%でした。医院からの精密検査の結果報告は大部分得られているようですので、**半数以上の方が精密検査を受けていないのではないかと**考えられます。
- 2021年度は肺がん13例、胃がん(X線)7例、大腸がん15例、乳癌23例、子宮がん11例が発見されました。
- 結果判明率から補正して得られた総受診者中のがん発見率は肺がん0.03%、胃がん(X線)0.05%、大腸がん0.1%、乳癌0.26%、子宮がん0.21%でした。
- 子宮頸癌はほぼ全例がごく早期の上皮内癌でした。
- 当会の5大がん発見率はおよそ**0.03%~0.3%**と推定されます。

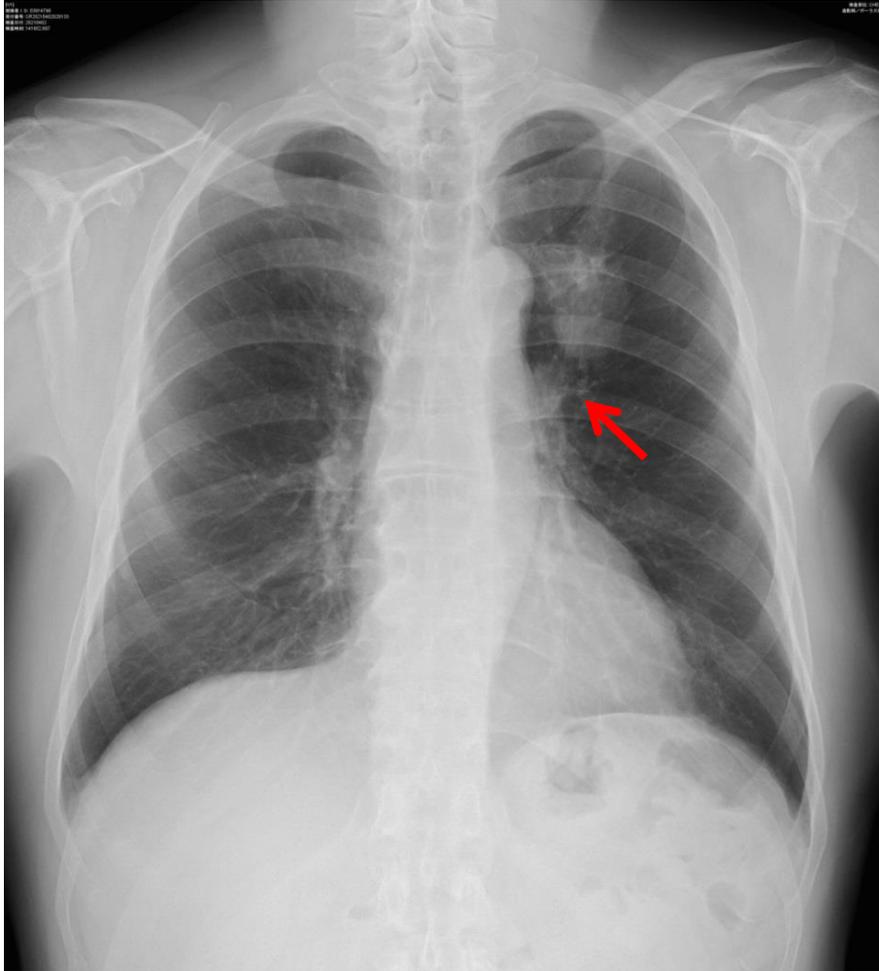
肺がん 2015-2021年度データの解析



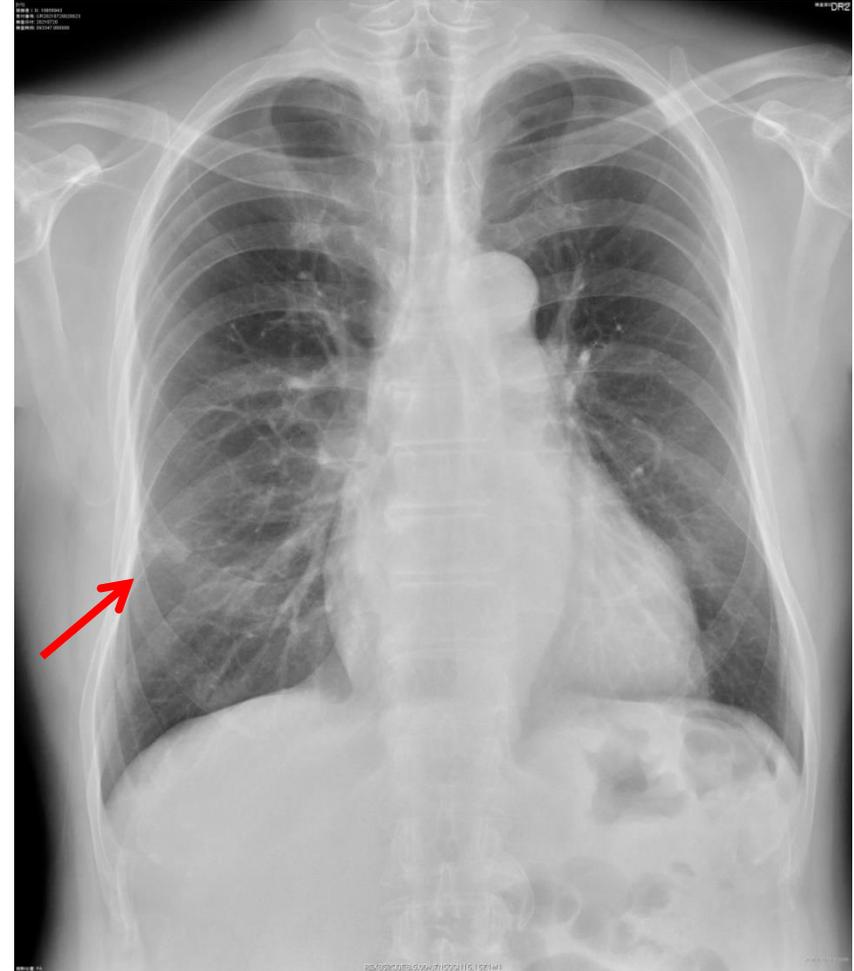
肺がんは男性に多く、**30歳代、40歳代の肺がん**の方もおられました。多くが早期癌で発見されていますが、要精検とされたのに病院を受診せず、進行癌で再発見された方もおられます。

2021年度肺癌

症例1

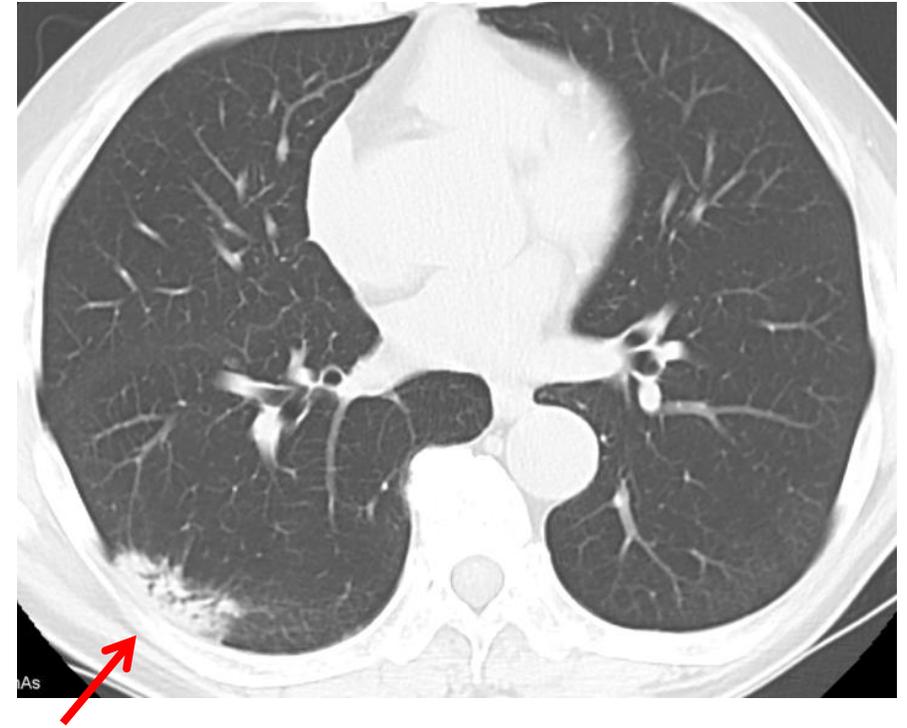
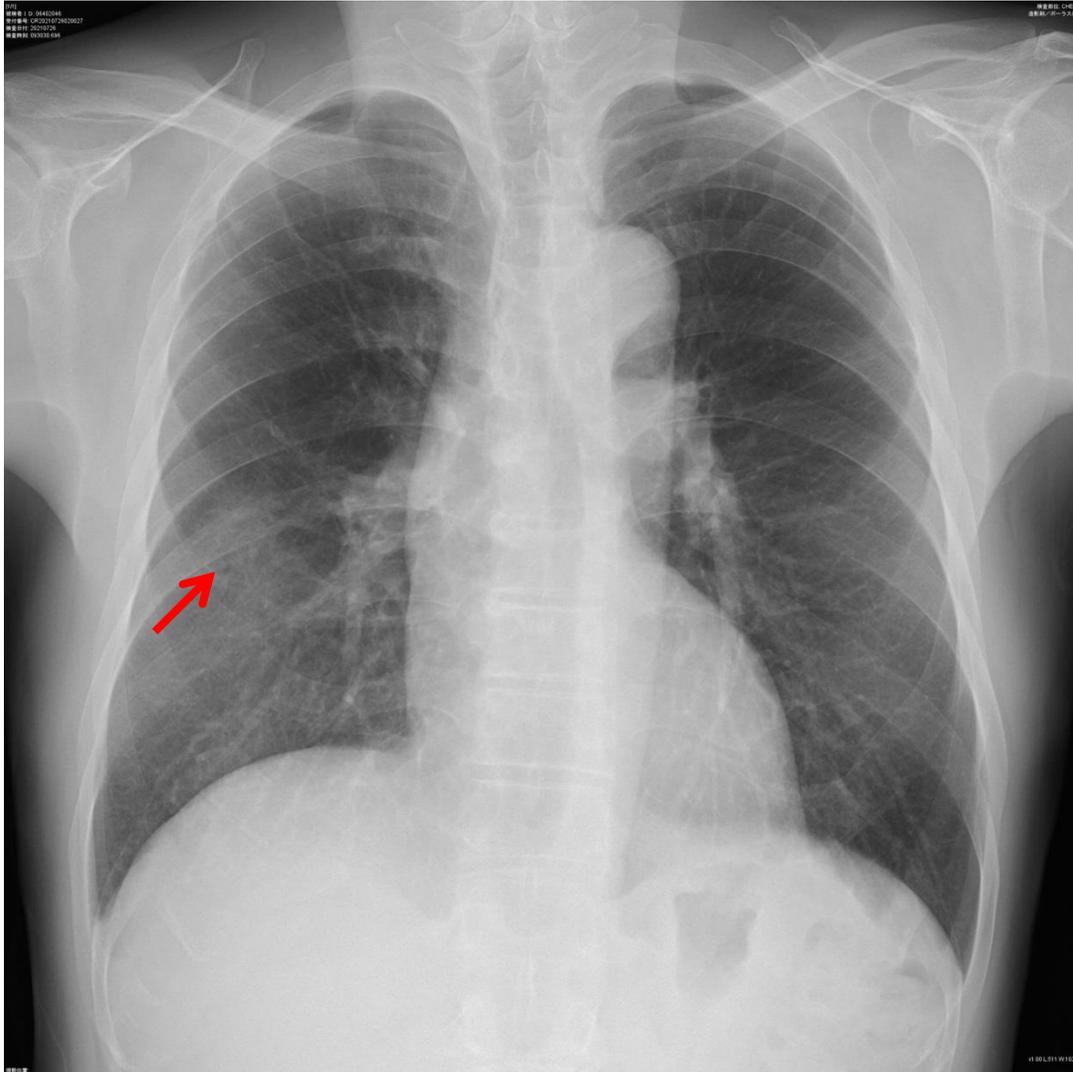


症例2



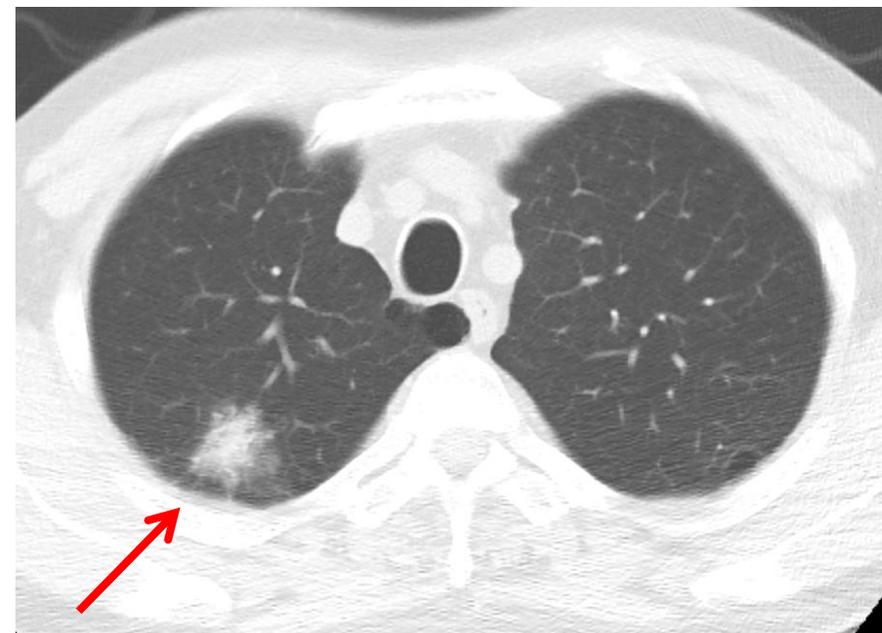
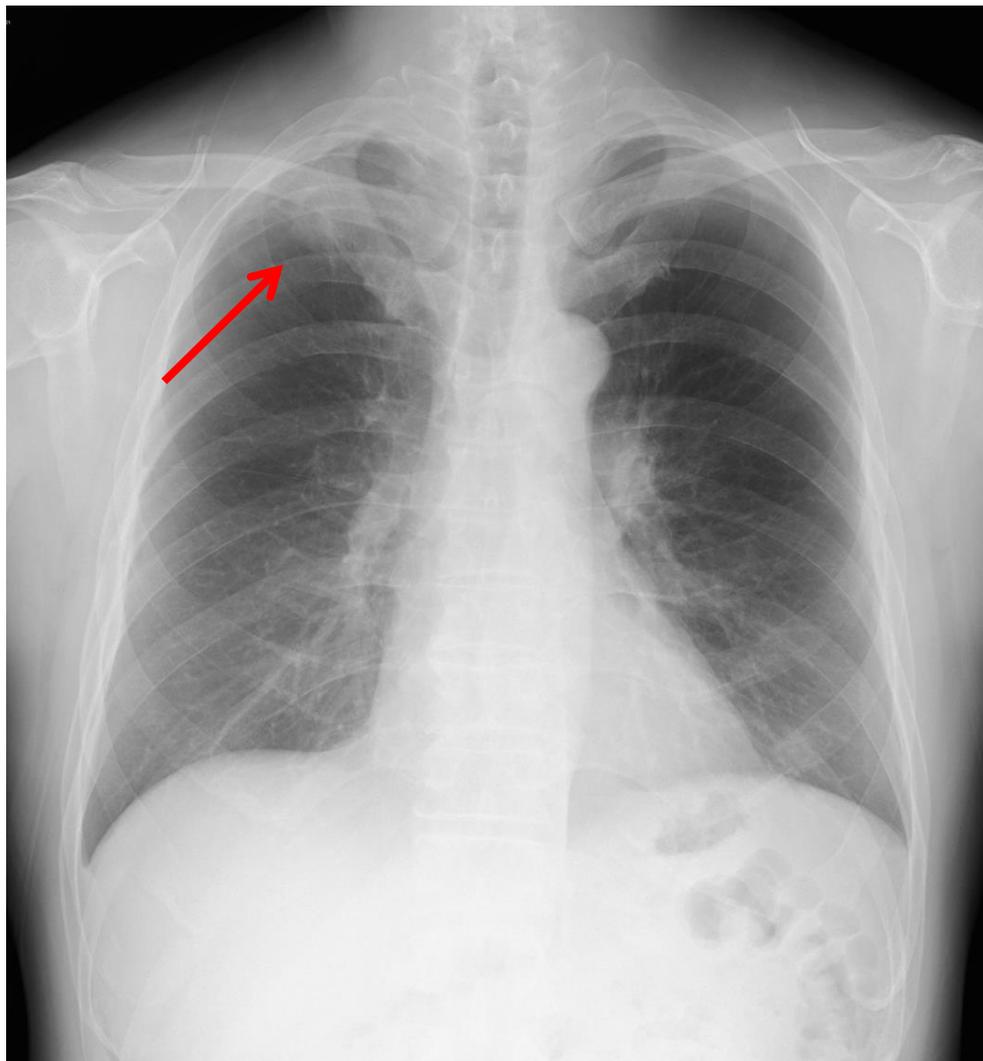
2021年度肺癌

症例3



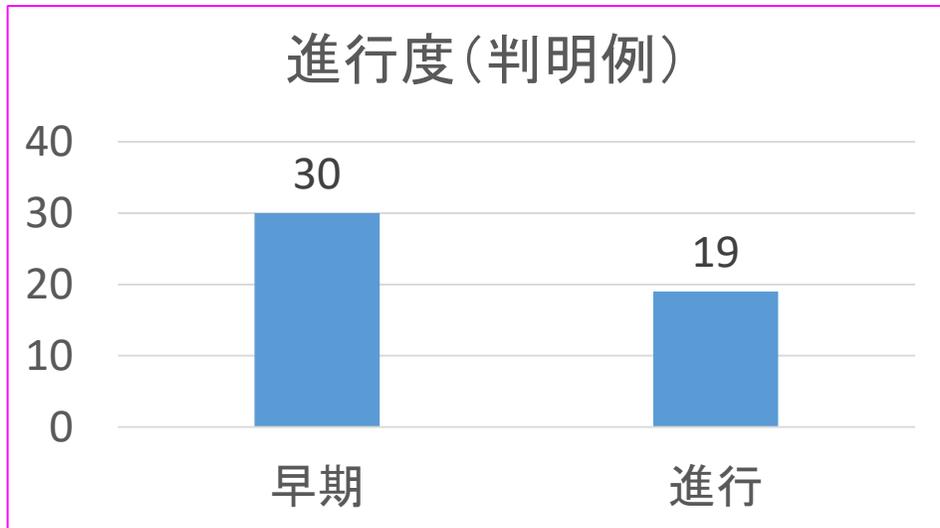
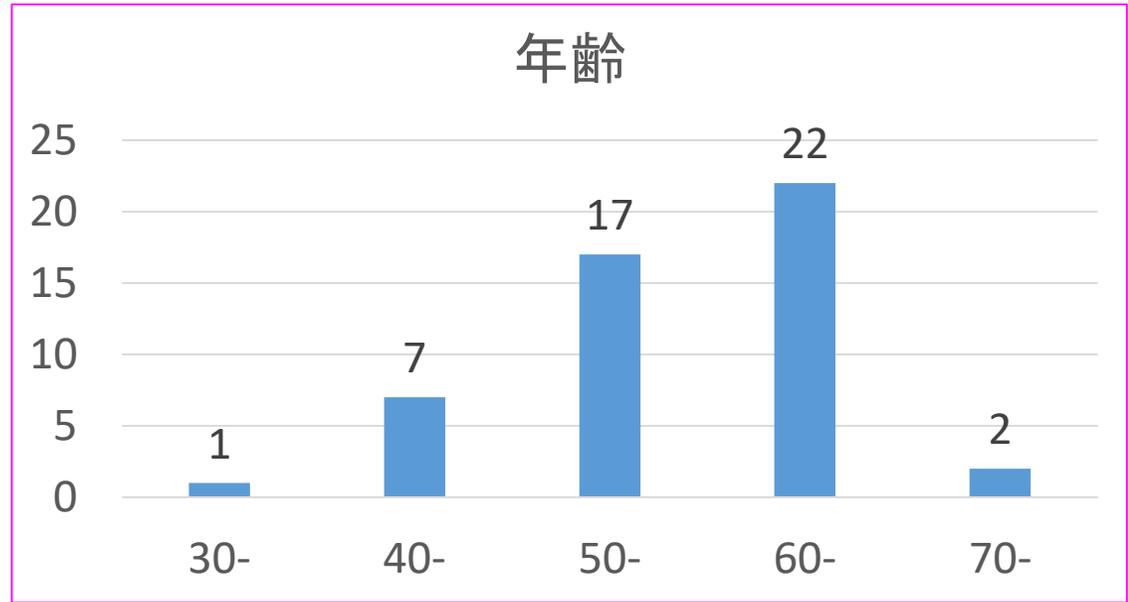
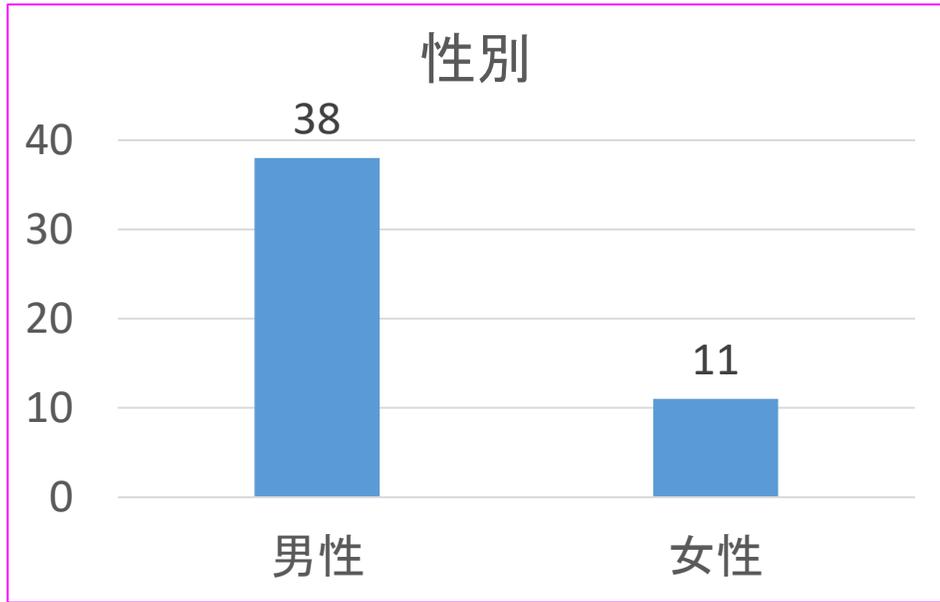
2021年度肺癌

症例4



胃がん

2015-2021年度データの解析



胃がんも男性に多く、**30歳代の胃癌**の方もおられました。多くが早期癌で発見されていますが、1年で急速に進行した方もおられます。本年度もほとんどの方が無症状で、空腹時痛、下痢各1例でした。

2021年度胃癌症例

症例1

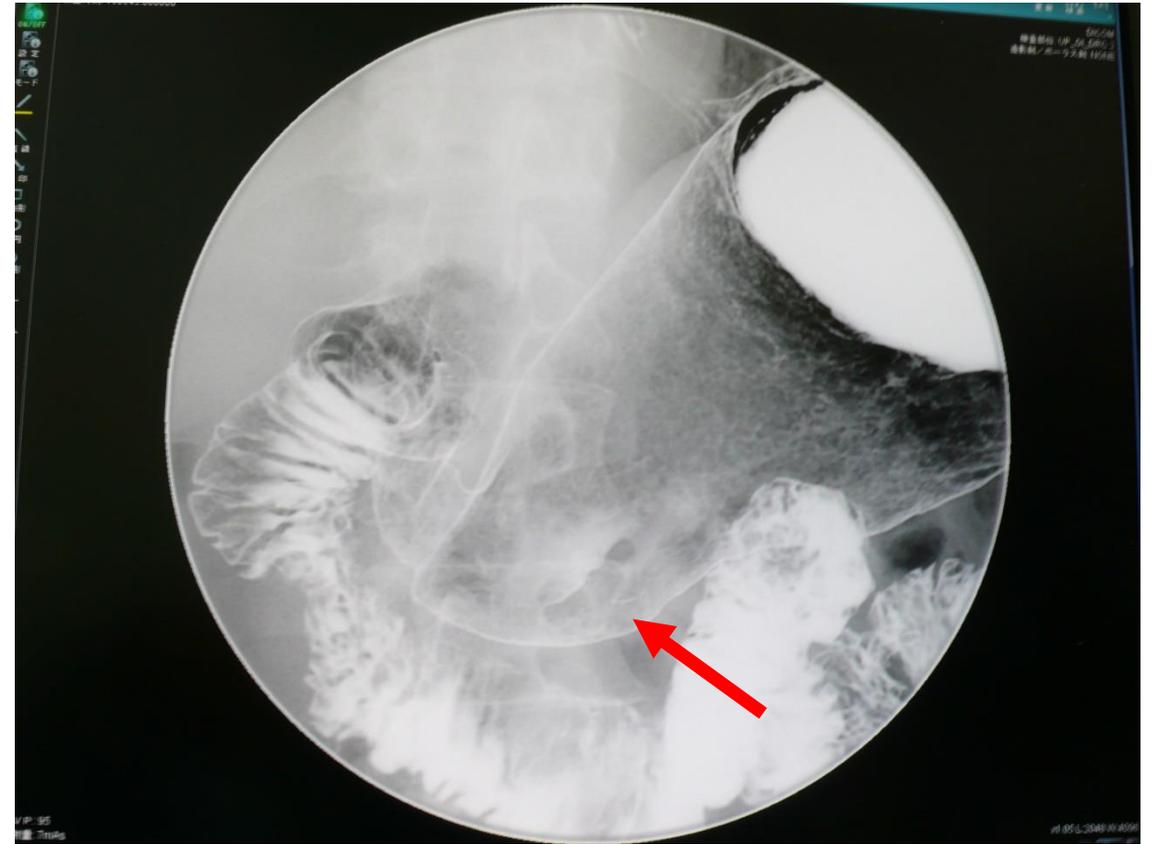


2021年度胃癌症例

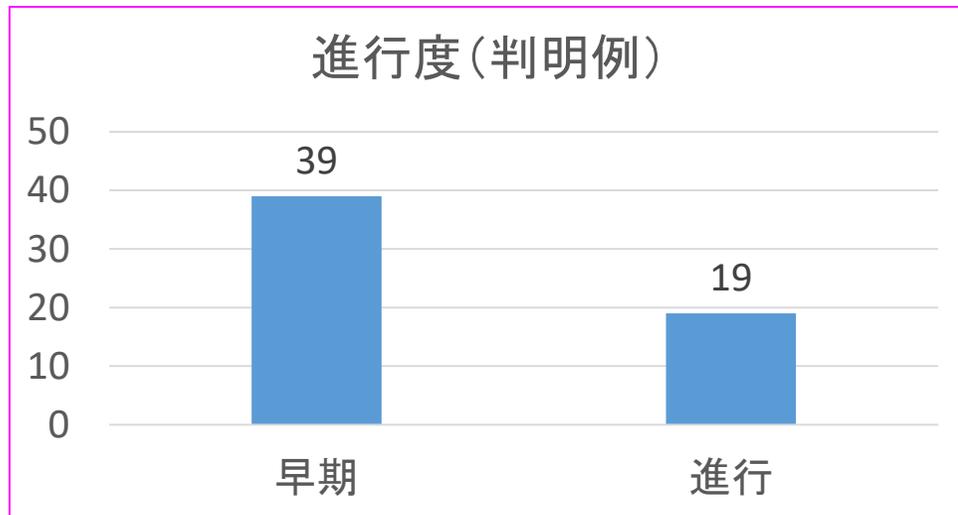
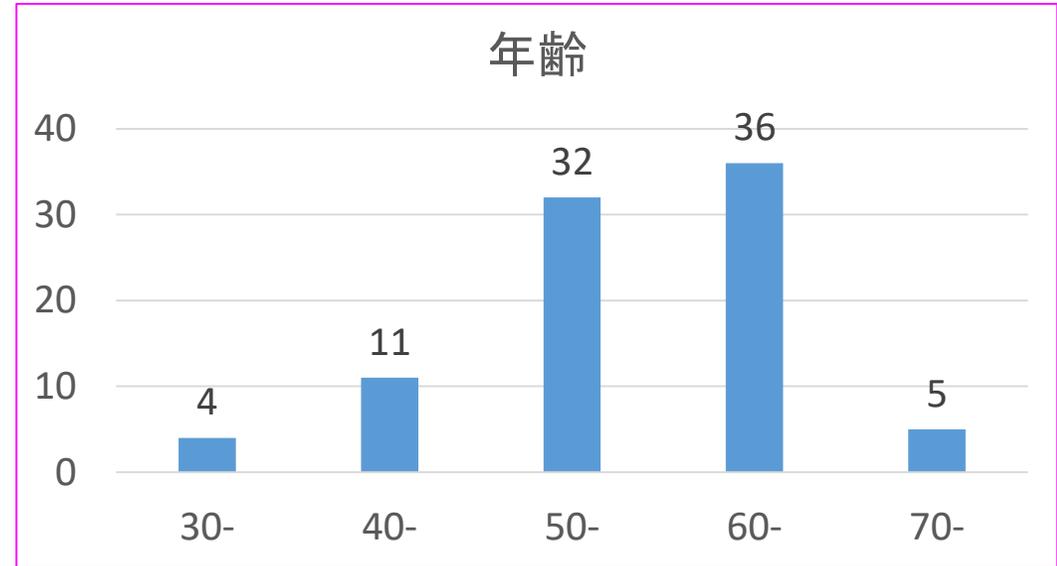
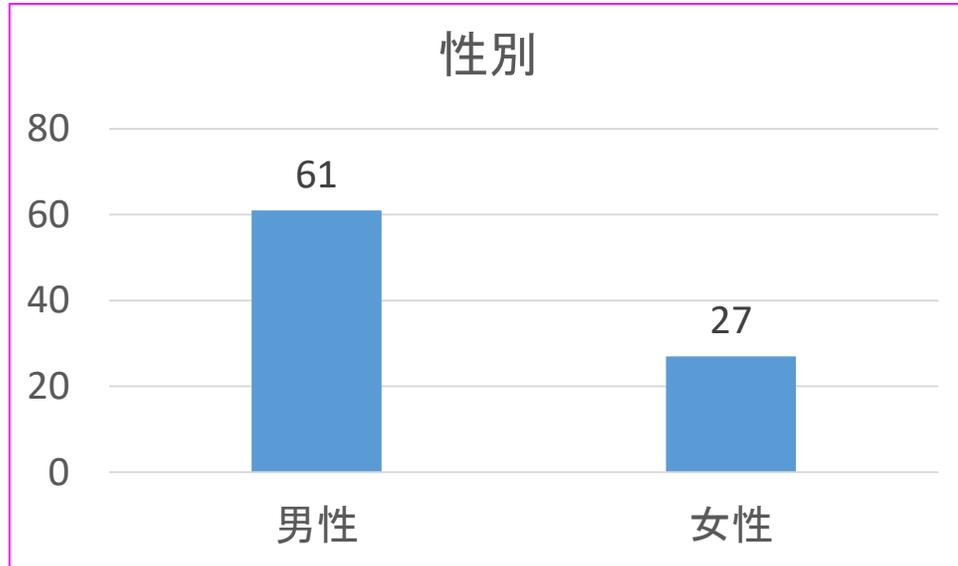
症例2



症例3

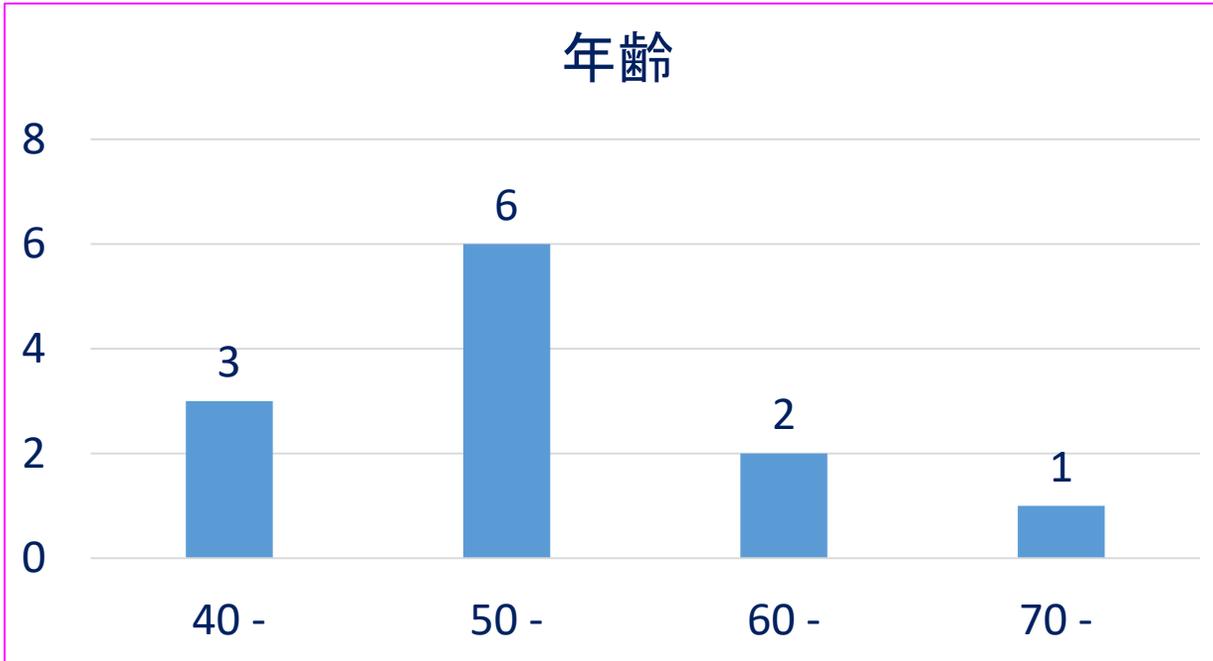


大腸がん 2015-2021年度データの解析



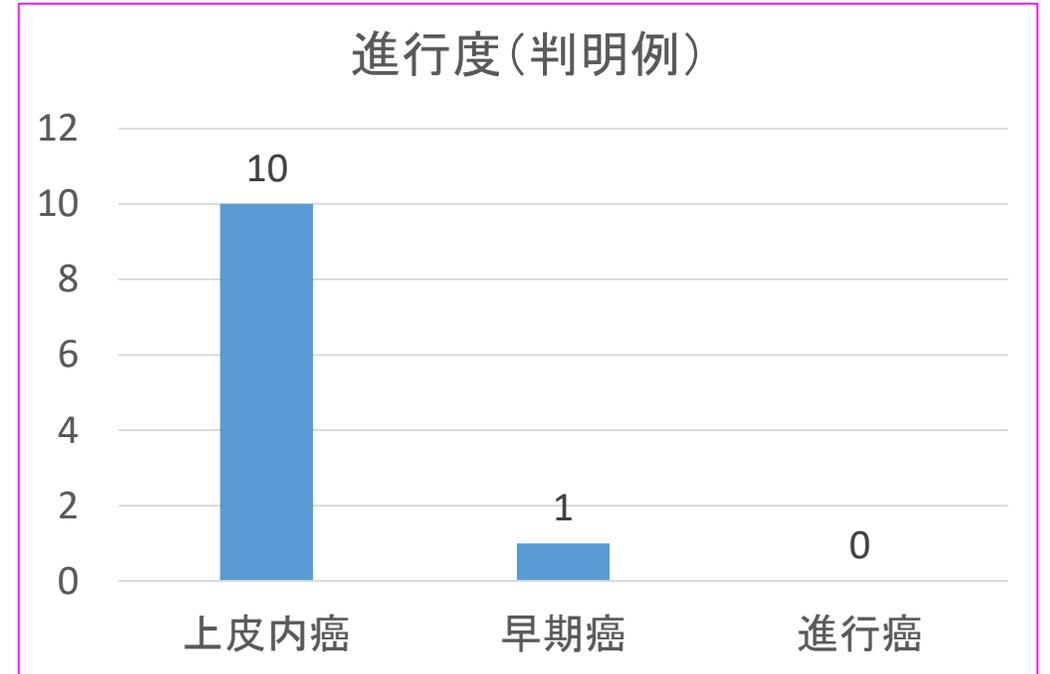
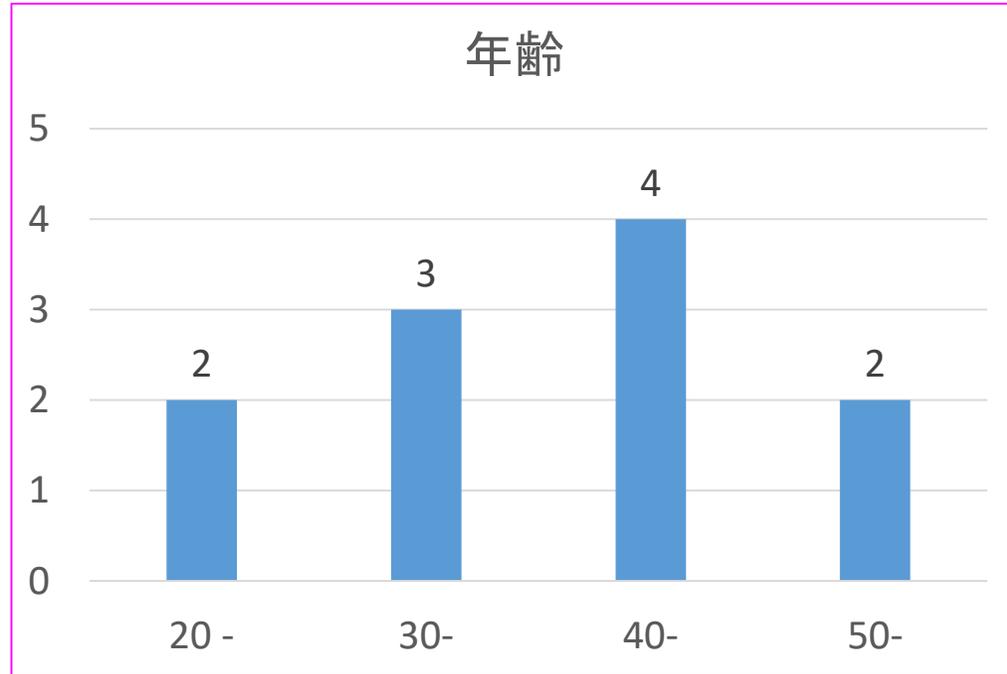
大腸癌も男性に多く、**30歳代の大腸癌**の方もおられました。多くが**早期癌**で発見されています。**便潜血反応と関係なく5~10年に一度大腸内視鏡検査あるいは大腸CT検査を受けると、有意に生存率が向上すると報告されています。**

乳がん 2020-2021年度データの解析



女性で最も多いがんで、若年層に多い傾向がみられます。

子宮頸がん 2021年度データの解析



20、30歳代で発見された方もおられます。ほとんどがごく早期の上皮内癌で発見されています。

まとめ1

- コロナ禍の検診でしたが、受診者数やがん発見率に大きな変化は認められませんでした。
- **要精密検査の約2～10%**の方に肺がん、胃がん、大腸がん、乳がんなどが発見されています。
- 大半は早期癌で発見されています。
- ほとんどの方が無症状でした。

まとめ2

- 肺がん、胃がん、大腸がんは30歳代にも発見されています。**40歳からがん検診**は必ず受けましょう。
- 子宮頸癌は20, 30歳代でも発見されています。
- 精密検査を指摘されたのに放置している方が多数おられます。**無症状でも必ず精密検査を受けて下さい！**
- 数年検診をスキップした間に進行癌になった方もおられます。がん検診は**毎年必ず**受診しましょう。

乳がん検診に関する最近の話題



2023.2.9

杜の都産業保健会健診セミナー

当会乳腺専門医の大内明夫先生による
講演要旨

“がん”罹患数

2018年に新たに診断されたがんは

980,856例

(男性558,874例、女性421,964例)

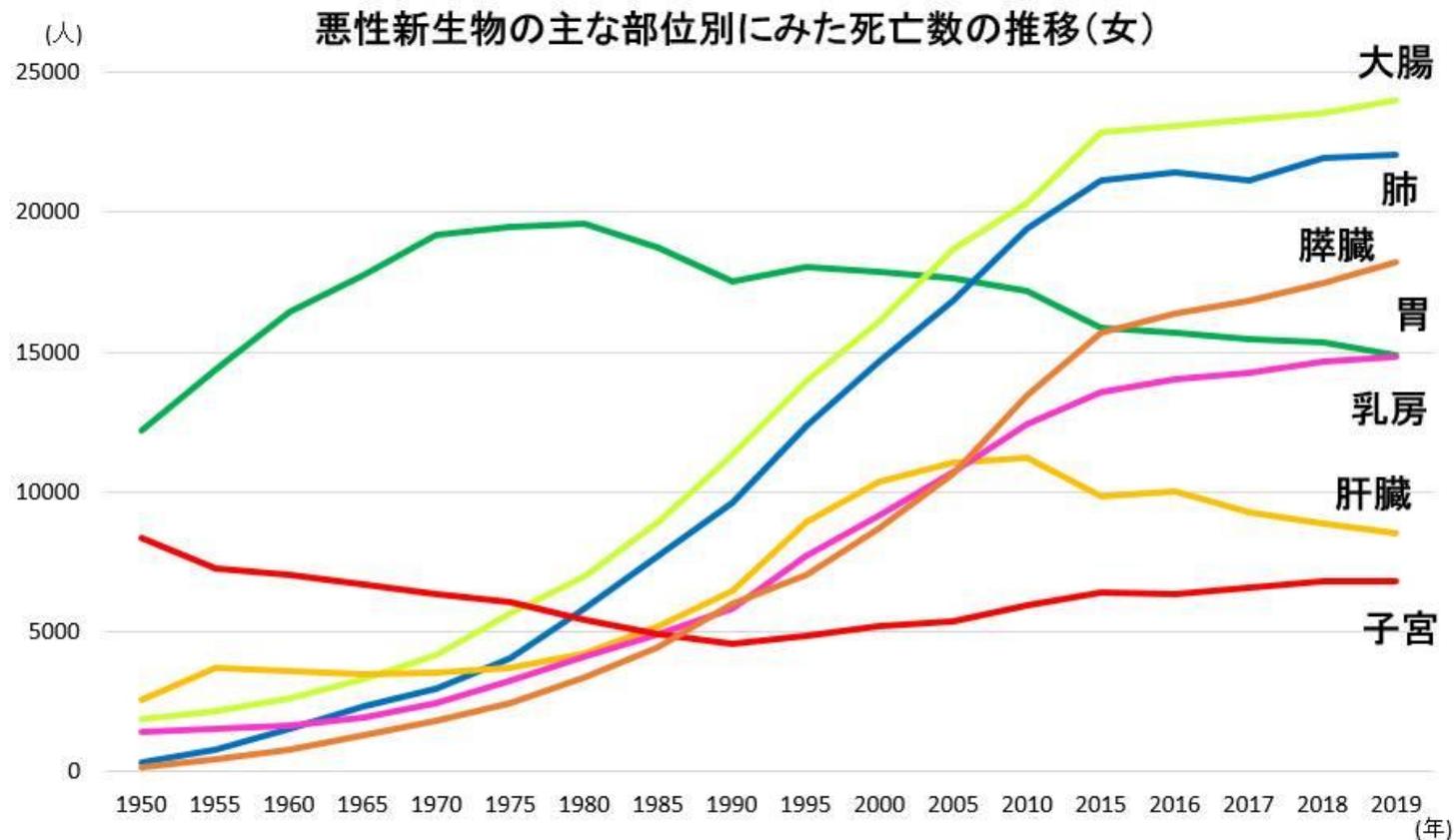
罹患数が最も多いのは、女性では乳癌です

がん罹患数の順位（2018年）

	1位	2位	3位	4位	5位	
総数	大腸	胃	肺	乳房	前立腺	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸3位、直腸6位
男性	前立腺	胃	大腸	肺	肝臓	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸4位、直腸5位
女性	乳房	大腸	肺	胃	子宮	大腸を結腸と直腸に分けた場合、結腸2位、直腸7位

元データ：[全国がん登録罹患データ](#)  (numberシート)

しかし、女性で死亡率の最も高いのは大腸がんで、乳がんによる死亡数は第5位です。



悪性新生物の主な部位別にみた死亡数の推移 (2019年人口動態統計確定数 厚労省)

がん10年生存率

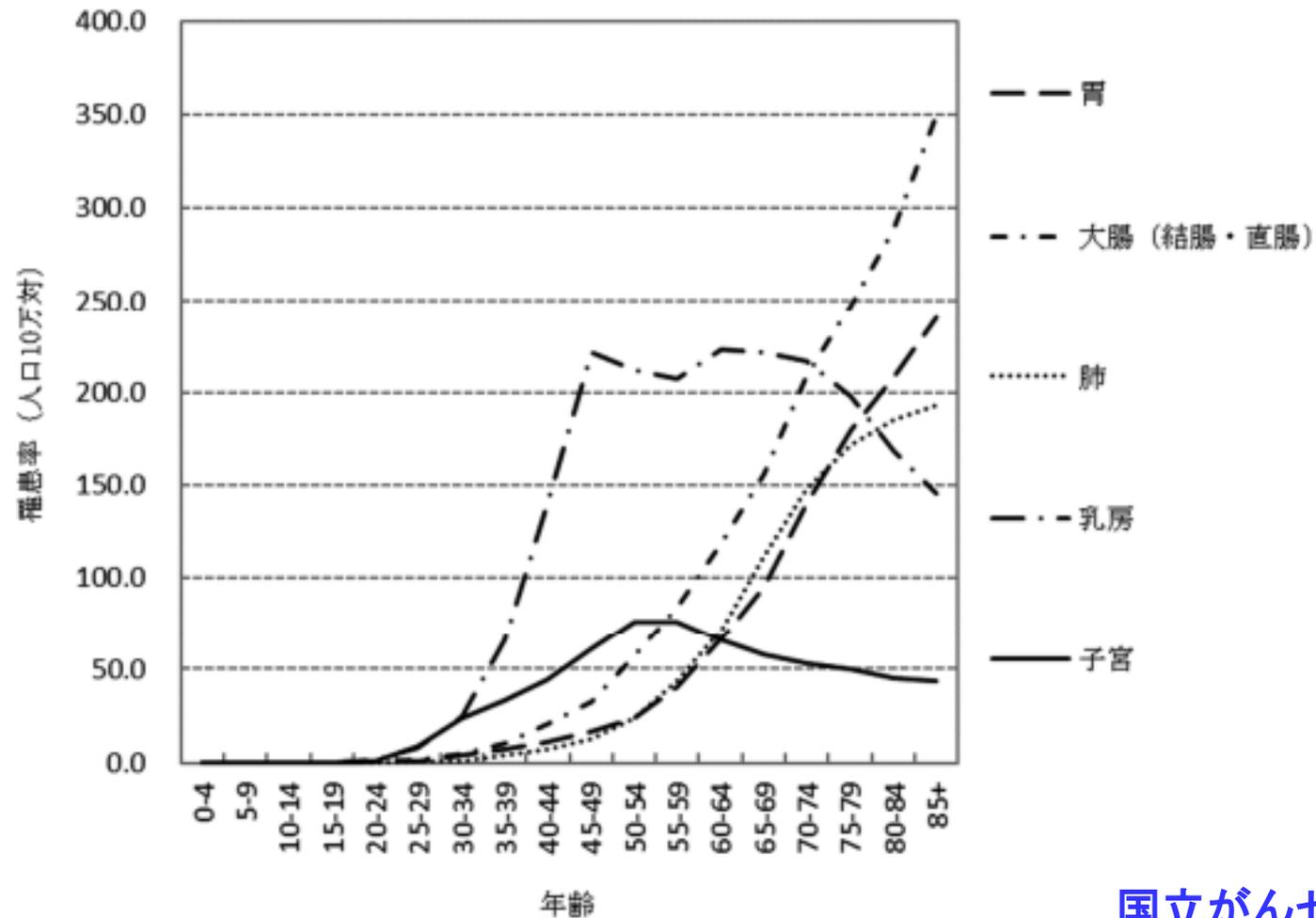
国立がんセンター発表 2021.11

女性の乳がん		NHK
ステージ1	98.3%	
ステージ2	88.7%	
ステージ3	66.6%	
ステージ4	18.5%	
全体	87.5%	

乳がんは比較的治りやすいがんですが、やはり早期発見が大事です！

年齢とがん罹患率(女性)

乳がんは若年層に多く、40代から一気に増加します。



乳がん検診について

杜の都産業保健会

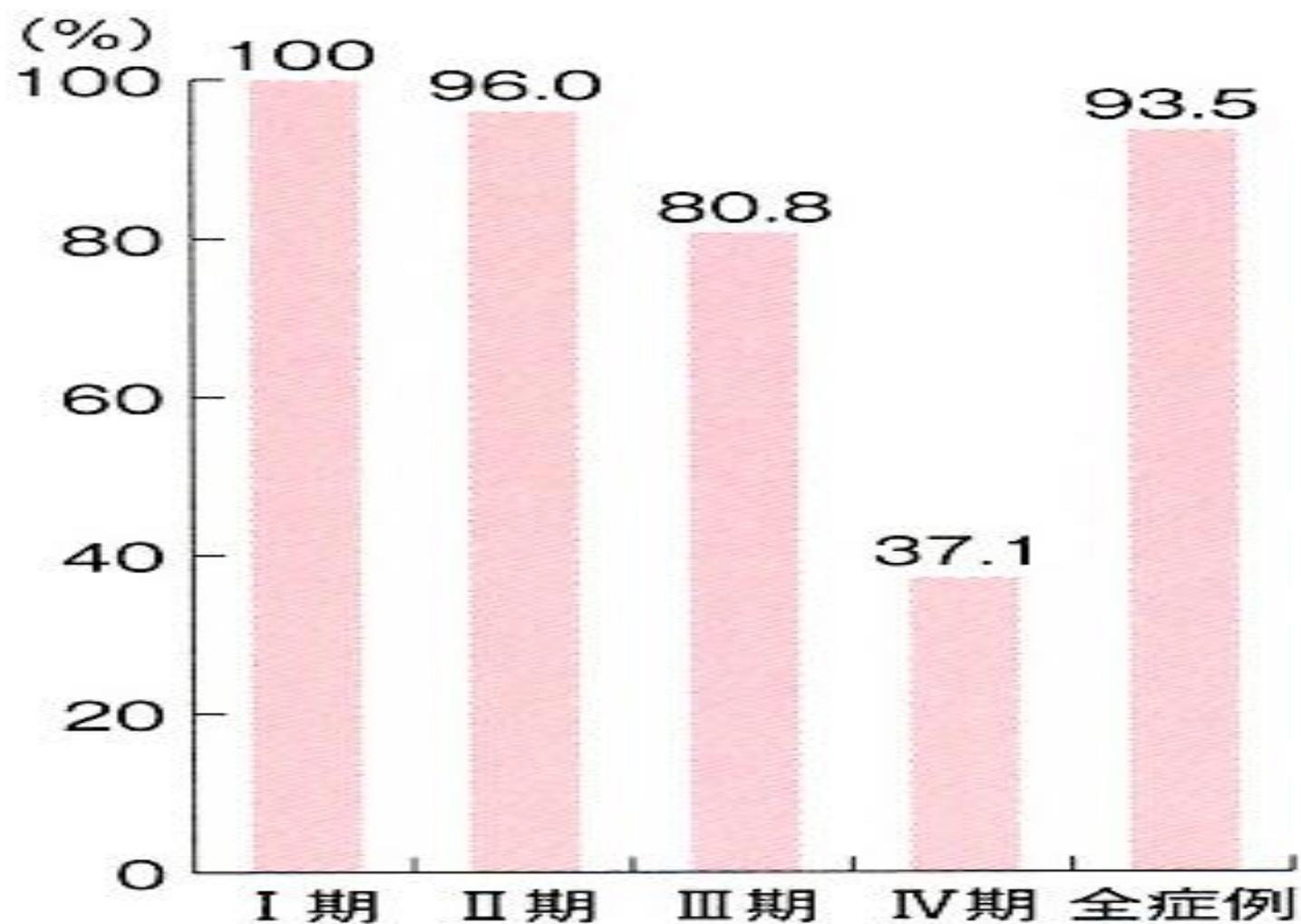
一番町健診クリニック

乳腺外科 大内明夫

乳がんの病期分類(ステージ)

病期0 (ステージ0)	乳管や小葉の中にとどまった状態のもの (非湿潤がん)。(パジェット病を含む)。		
病期1 (ステージI)	しこりの大きさ 2cm以下	リンパ節への転移がないと思われるもの。	
病期2 (ステージII)	しこりの大きさ 2.1~5cm	リンパ節への転移がないもの、あるもの。しこりが2cm以下であっても、わきの下のリンパ節転移が疑われるもの。	
病期3 (ステージIII)	a	しこりの大きさ 2.1~5cm	リンパ節への転移がないもの、あるもの。しこりが5cm以下であっても、わきの下のリンパ節転移が疑われるもの。
	b	しこりの大きさ 問わず	鎖骨の上のリンパ節や乳房の周囲まで広がっているもの、皮膚、胸壁湿潤のあるもの。
病期4 (ステージIV)	乳房から離れたところに転移しているもの。		

● 病期ごとの5年相対生存率(2007～2009年症例)



[出典] 全国がん(成人病)センター協議会加盟施設
生存率協同調査より(2018年公表)

早期発見
(自己検診・乳がん集団検診)



**乳癌なんて
こわくない**

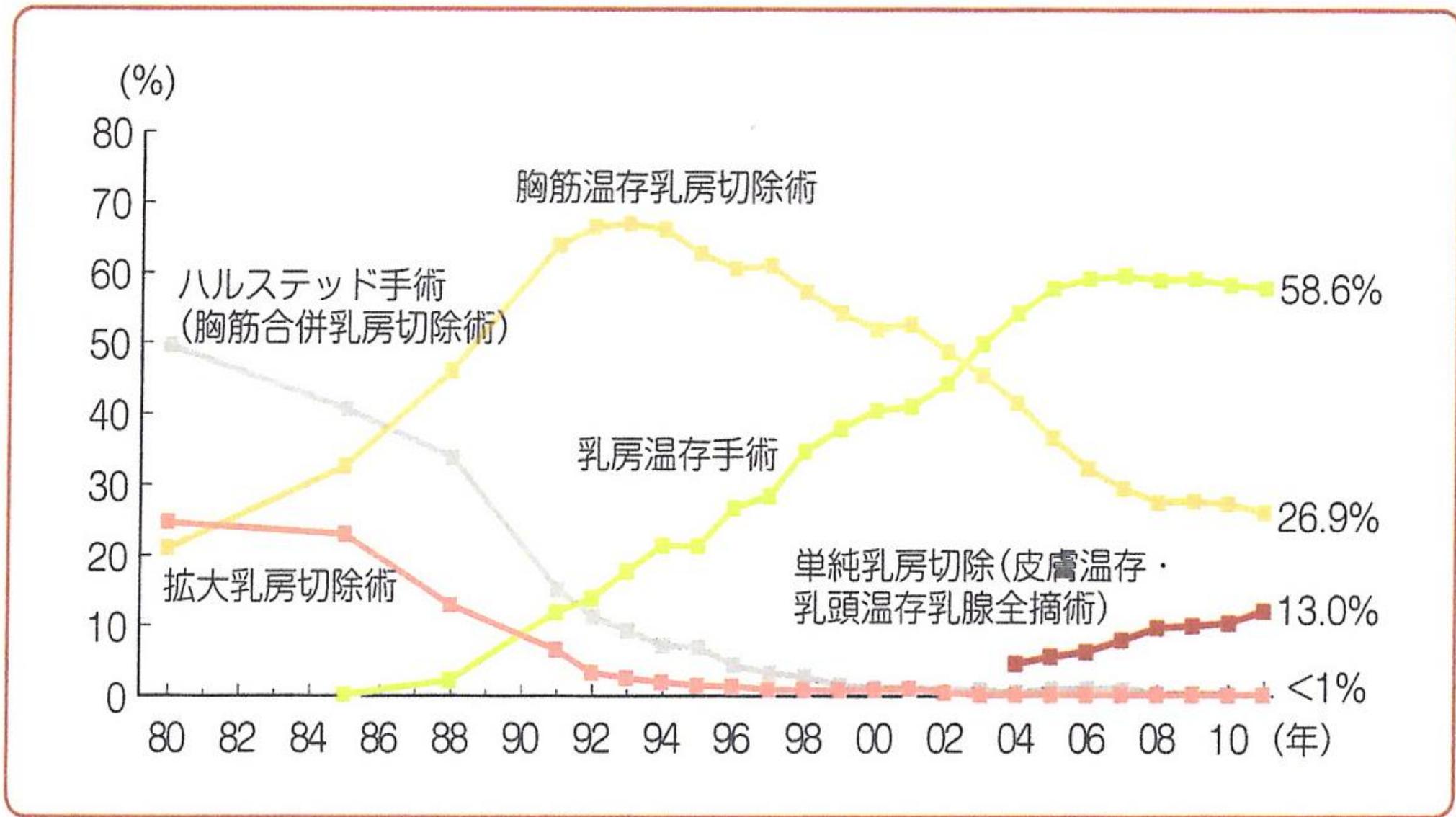


早期治療
(手術・内分泌化学療法)

乳がん検診の目的

乳癌死亡率の低下（死亡リスクの低下）

より早期の乳がんの発見 → 早期治療



早期に発見し乳房温存手術で治しましょう！

乳がんの早期発見

1 自己検診

2 集団検診

3 一般医師

a) 問診・視診・触診

b) 画像診断 (US・MMG・CT・MRI etc)

c) 細胞診・組織学的診断

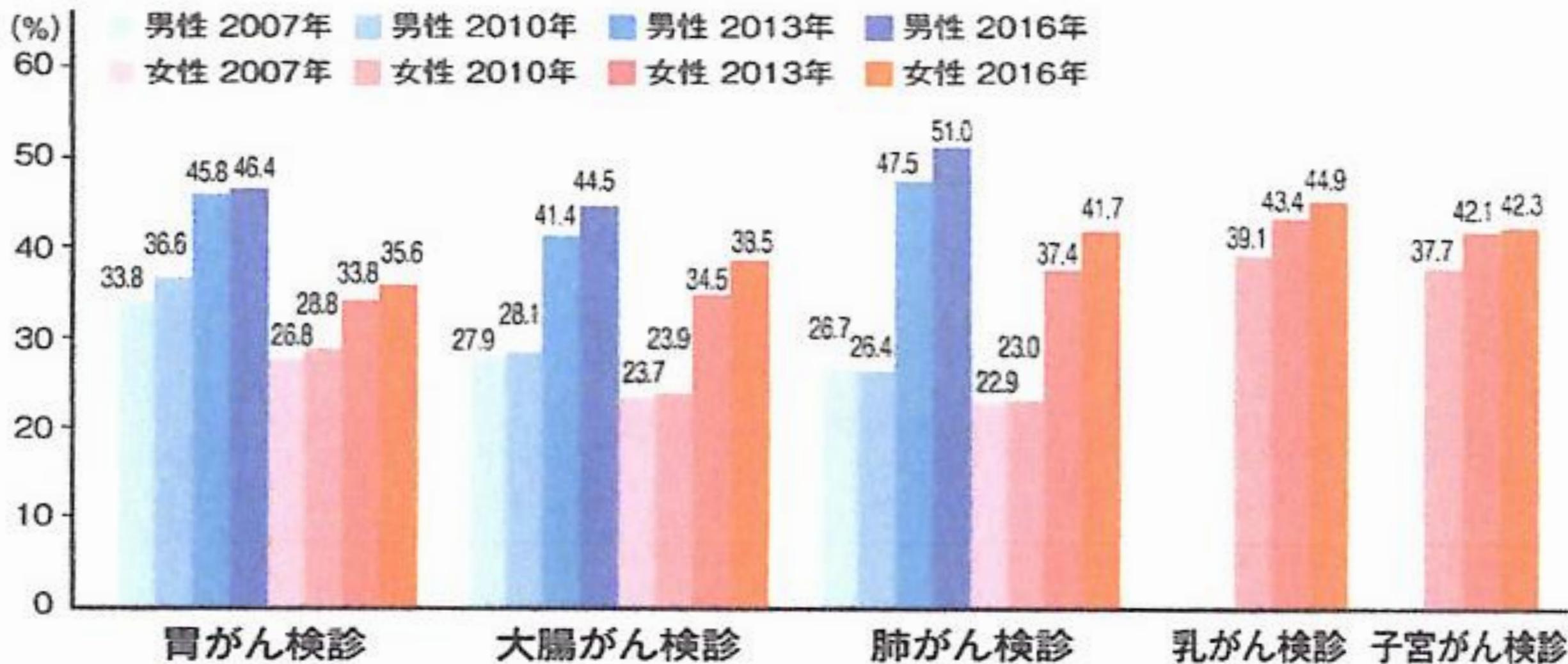
ブレストアウェアネス(乳房を意識する生活習慣)

- **普段の自分の乳房の状態を知る**
- **乳房の変化に気を付ける**
- **変化に気付いたら検診を待たずに医師へ相談する**
- **変化がなければ定期的に乳癌検診を受ける**

乳腺疾患の主な症状

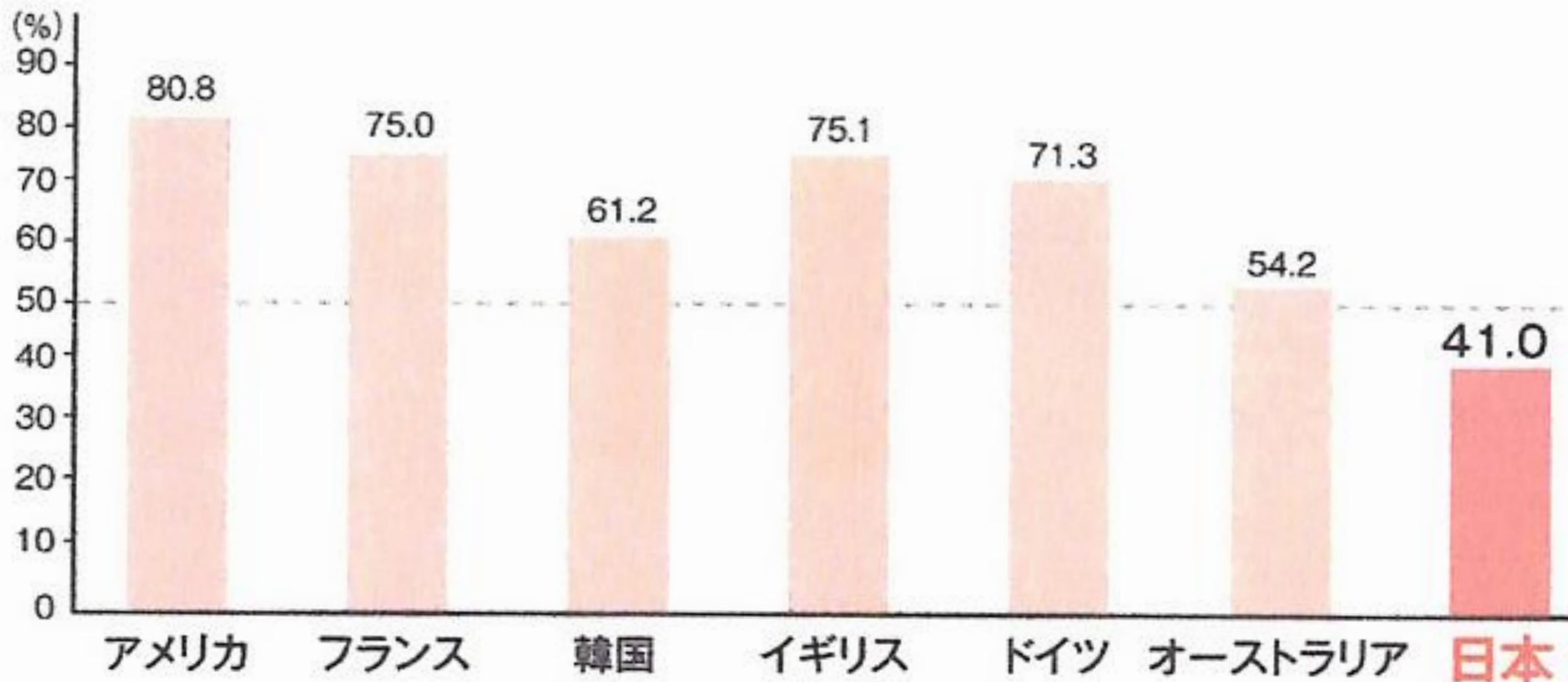
乳腺症	痛みを伴う、扁平なしこり
線維腺腫	痛みのない、球形のしこり
乳がん	痛みのない、硬いしこり
乳腺炎	乳房が赤くはれ、痛力が強い

男女別がん検診受診率(40~69歳)の推移



(国立がん研究センターがん対策情報センター)

乳がん検診受診率の国際比較



(国立がん研究センター がん対策情報サービス)

乳がん検診マニュアル

乳がん検診の検査項目は、問診および乳房エックス線検査（マンモグラフィ）とする。なお、**視触診は推奨しないが、仮に**
実施する場合はマンモグラフィと併せて実施すること。
対象年齢は40歳以上の女性とし、原則として2年に1回とする。

乳がん検診受診の際には 何の検査を受けたら良いか！

- 40歳以上では2年に1回のマンモグラフィ（2方向）検査
- マンモグラフィで乳房構成が高濃度と判定されたときには乳房超音波検査（エコー検査）を併用
- 40歳未満では1年に1回の乳房超音波検査（エコー検査）

マンモグラフィ(MMG)の所見

A 腫瘍陰影像

形状・境界と辺縁・濃度

B 石灰化像

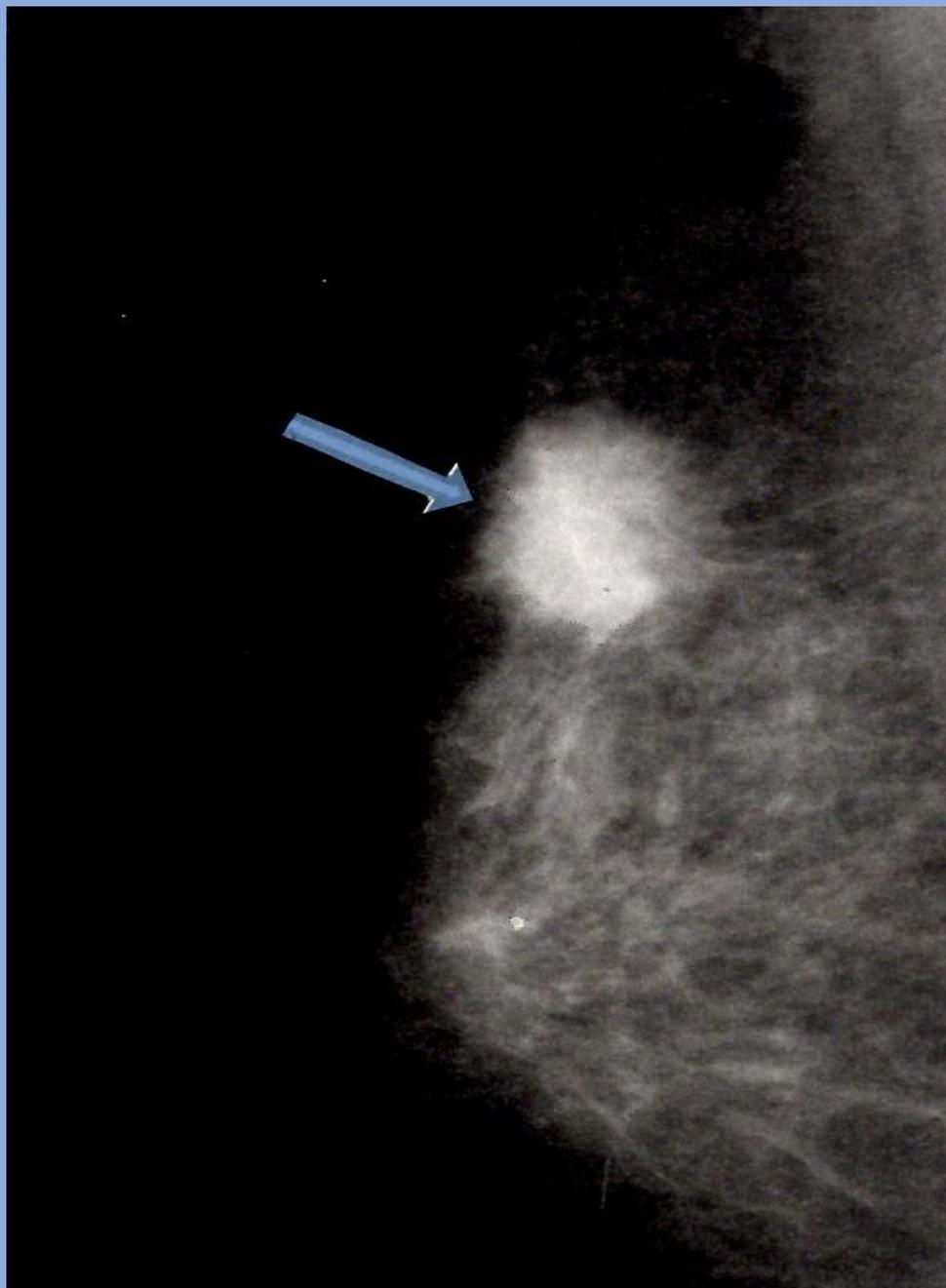
明らかな良性石灰化

良・悪性の鑑別を要する石灰化（石灰化の形態・分布）

C その他の所見

乳腺実質の所見・皮膚所見・リンパ節所見

マンモグラ
フィーによる
腫瘍陰影像

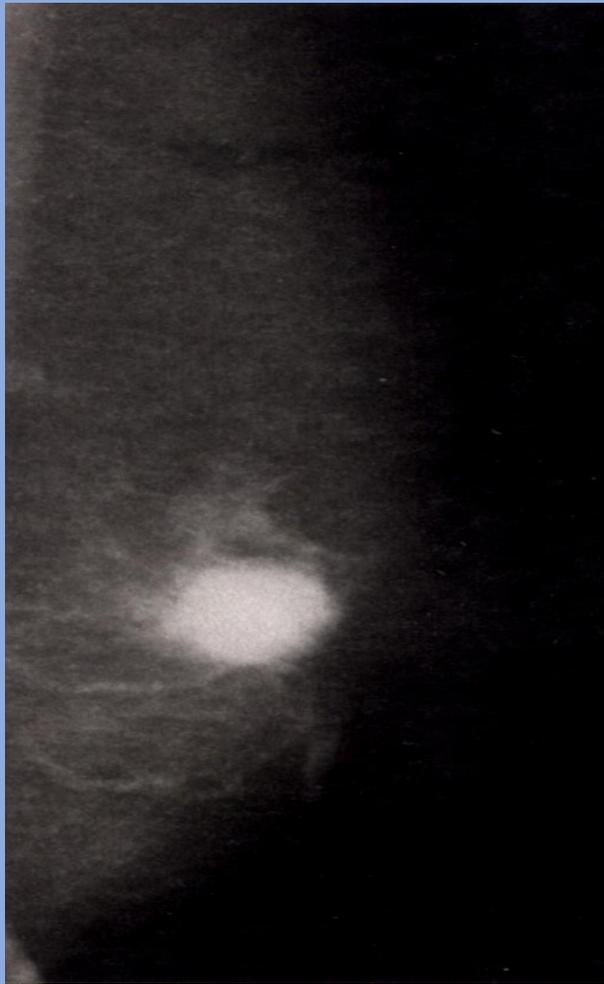


微細鋸齒状
不整形腫瘍陰影像

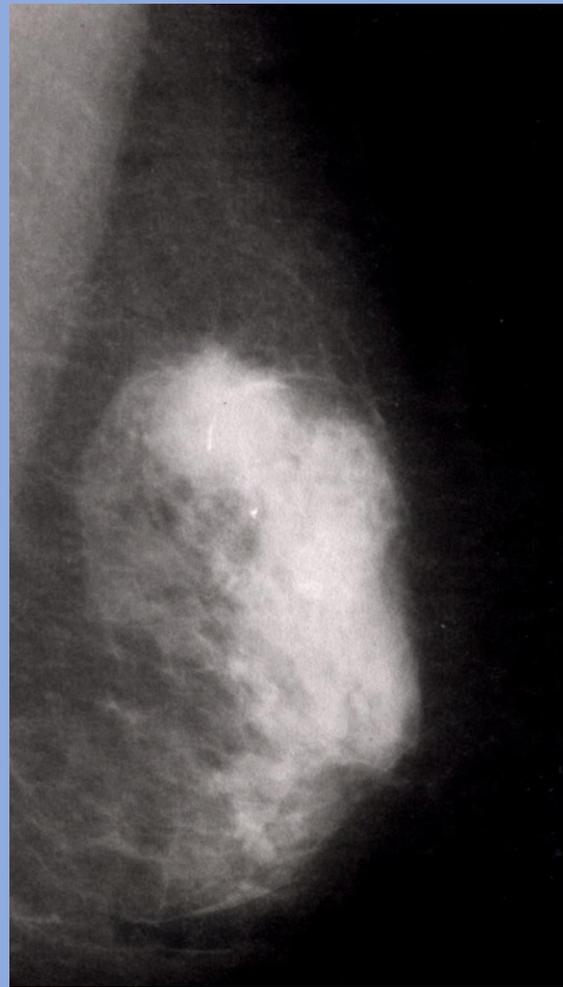
乳がん：硬性型

乳房の構成と腫瘍陰影像

74歳 充実型腺管癌



63歳 充実型腺管癌



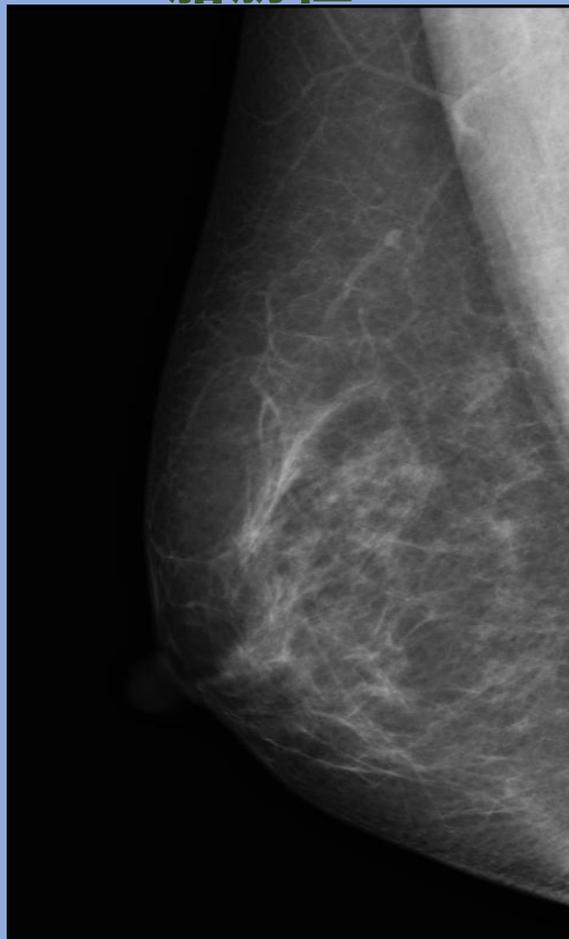
46歳 硬性型腺管癌



正常乳房の構成

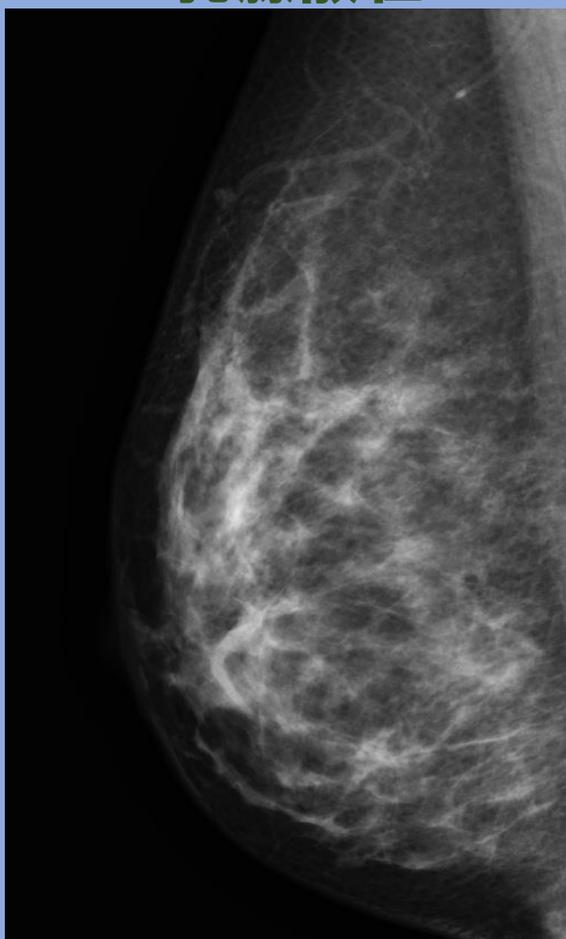
〔高濃度乳房〕

脂肪性



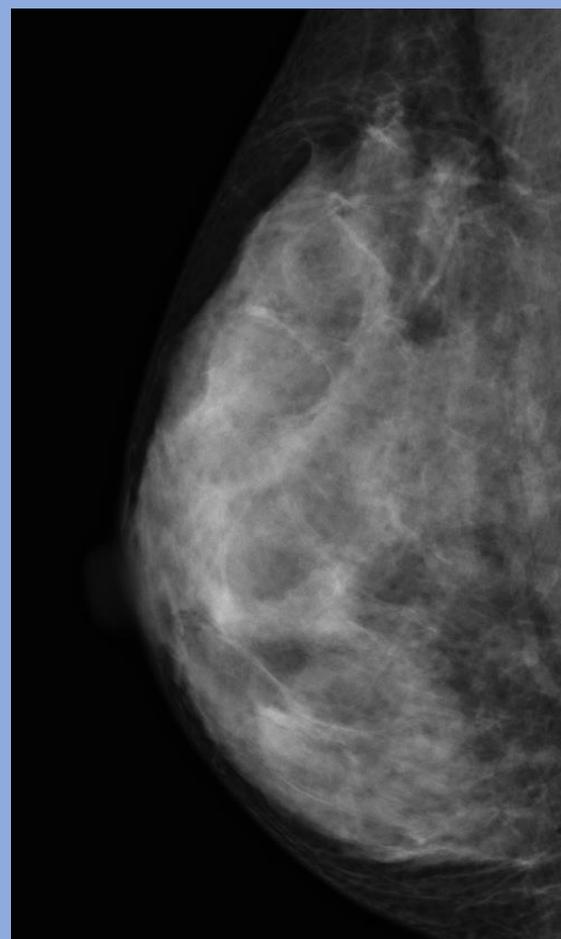
乳腺内がほぼ
脂肪に置換

乳腺散在



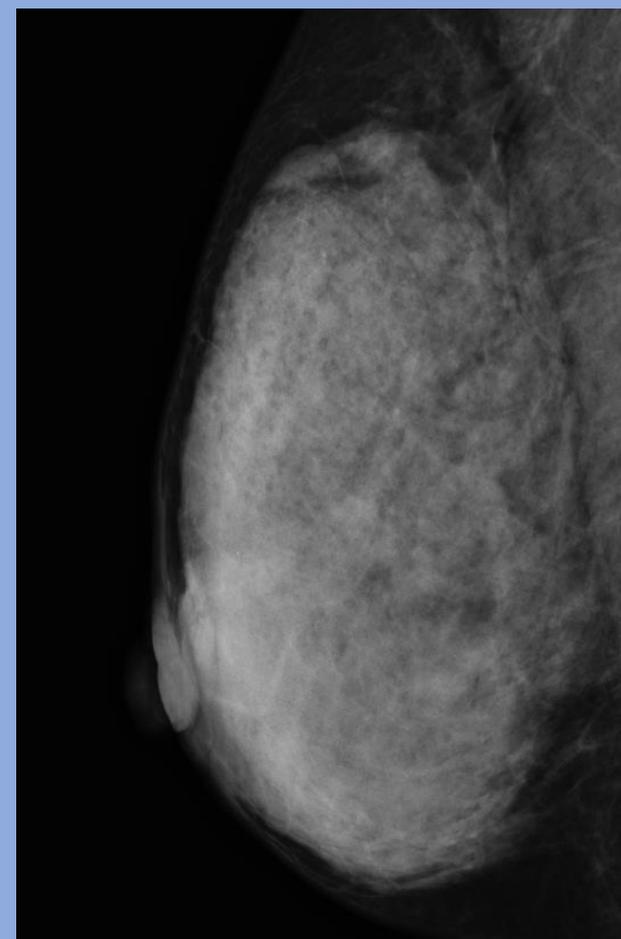
乳腺内に乳腺実質が
散財している

不均一高濃度



乳腺実質内に脂肪
が混在し、不均一な
高濃度を呈する

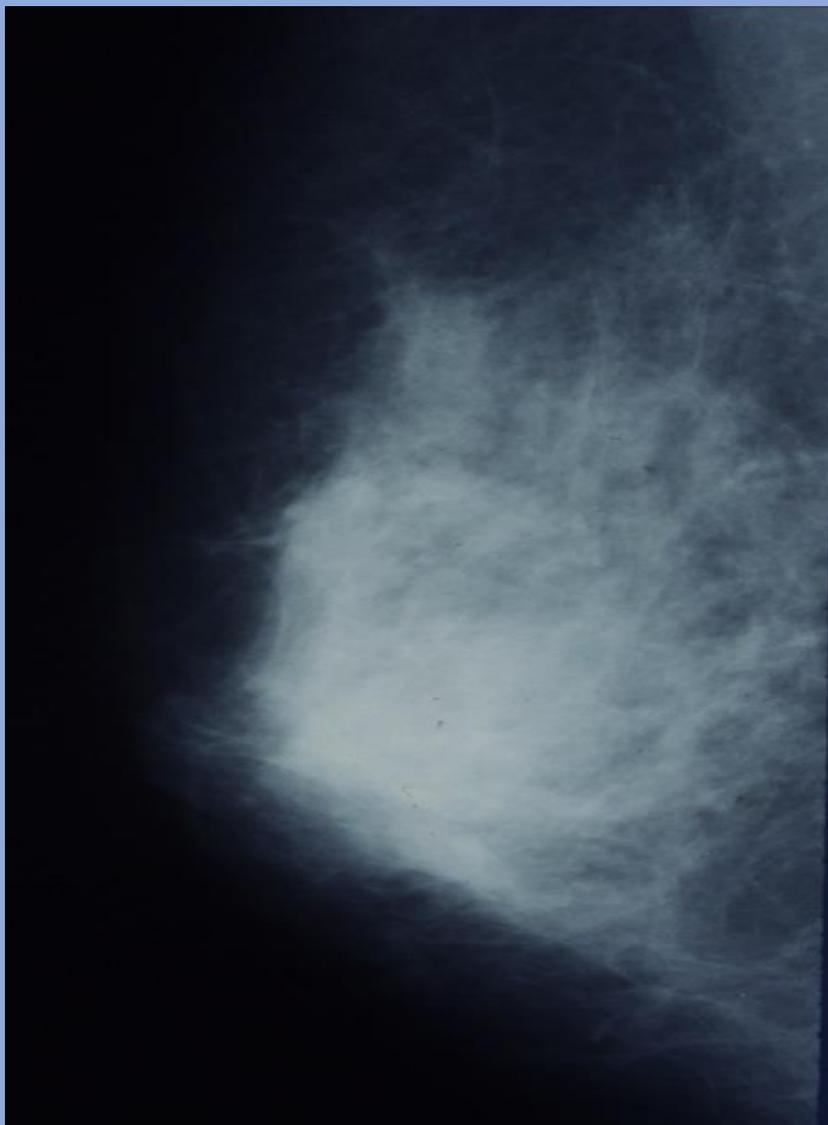
高濃度



乳腺内に脂肪の混
在はほとんどなく
高濃度を呈する

40代女性に多い高濃度乳房では
マンモグラフィー(MMG)によって
乳がんを発見するのが困難です！

58歳 Stage II



充実型 IDC



超音波検査(US)は高濃度乳房内の癌を発見することが可能です。

乳がん検診の利益・不利益

•利益

乳がん死亡の回避(死亡率減少効果)

•不利益

偽陰性(がんが発見されないことがある)

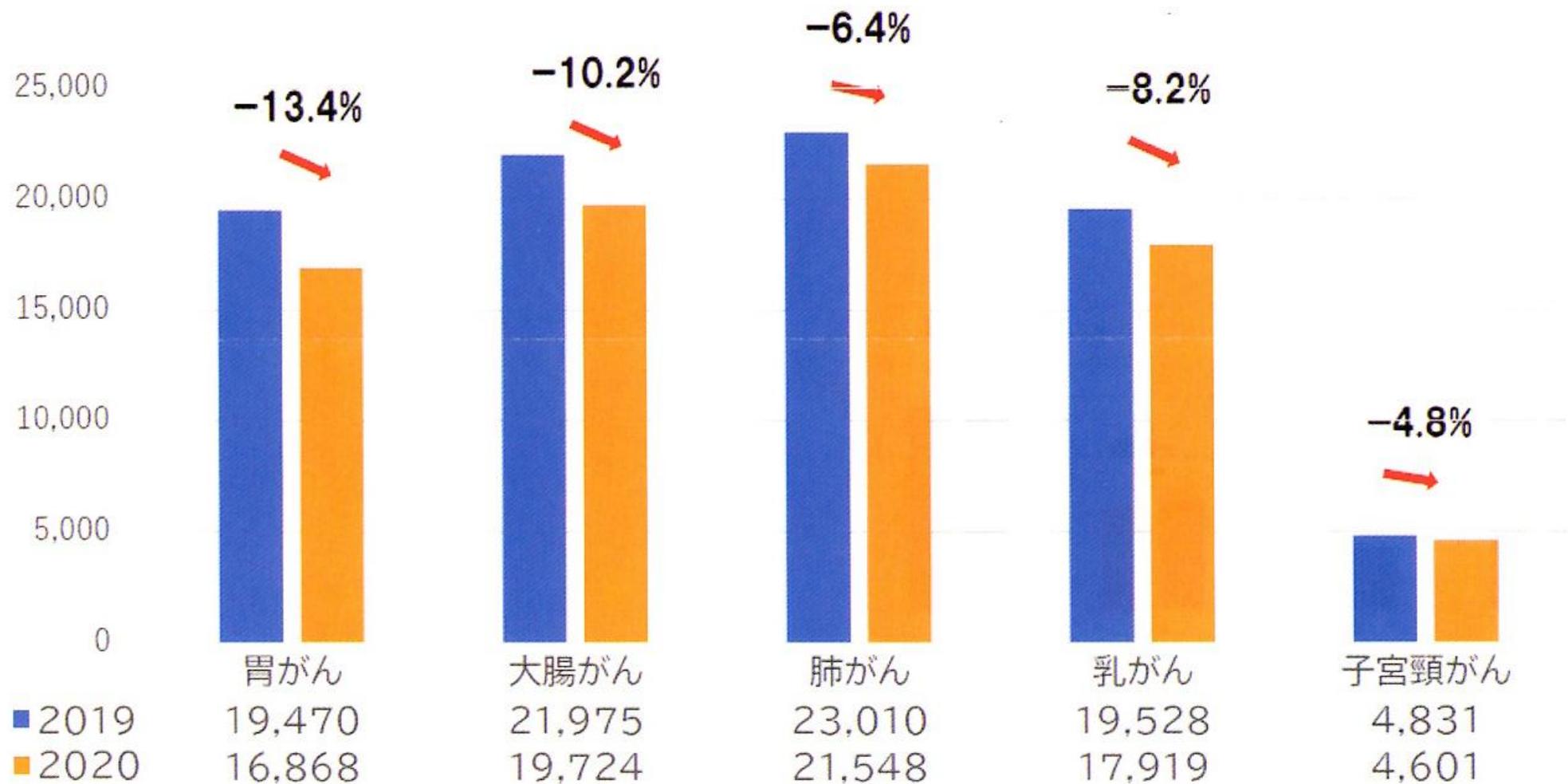
偽陽性(がんでないのにがん疑いの診断)

過剰診断(がんの病期が正確に診断されない)

被爆(マンモグラフィ検査による被爆)

心理的影響(要精検と言われた:がんへの不安)

コロナ禍でがん診断件数が約9%減少 進行がん増加の懸念も



一番町健診クリニックの乳がん発見率

		乳がん確定	がん発見率
• 2019年度			
マンモグラフィ	4,847	15	0.31%
超音波検査	2,819	1	0.04%
MMG + US	481	1	0.21%
• 2020年度			
マンモグラフィ	4,669	9	0.19%
超音波検査	2,875	1	0.03%
MMG + US	524	2	0.38%
• 2021年度			
マンモグラフィ	5,449	16	0.29%
超音波検査	3,023	2	0.07%
MMG + US	706	2	0.28%

最後までご覧いただきありがとうございました！

